

住民や企業の皆さんに喜ばれております。また、地域の生活道路整備にも予算を増額して側溝などの整備を進めています。さらに、役場に青バトを配置し、子どもたちの通学時の安全確保に努めるとともに、中学校に防犯カメラを設置し、子どもたちの学校生活の安全確保に取り組んできました。

7 人を大切にするまちづくり

昨年度から人権啓発福祉センターを核として、護国校区をモデルに人権啓発推進委員を配置し、人権問題の研修を深め、町民の皆さんたちと一緒に、交流と協働を基調とした「人権のまちづくり」を進めています。今年度は、昨年度の研修成果を踏まえ、全町的に展開するための検証を行うとともに、障害者や高齢者、外国人、男女など、個性や違いを認め、すべての人が暮らしやすく、活動しやすい社会づくりに向けて努めたいと考えています。

9 行財政改革

徹底的に行政の無駄を省き、さらなる行政サービスの向上を目指し、民間にできることは民間に、という考え方のもと、平成18年度から環境保全組合の組合長として、東部清掃工場及び環境美化センターの業務を包括的民間委託化して、町負担の軽減を図りました。今年度からは若草児童学園を指定管理者に、下水道浄化センターも包括的民間委託を実施すること、既に委託業者の選定を済ませました。

以上、町長就任1年目に申し上げた、町政全般の運営に関する基本的な考え方で、3年間の取組状況と、今後のまちづくりにおける私の考えの一端を申し上げますが、永年の懸案事項をはじめ、主要な施策に取り組むことができましたことは、諸先輩方が築いてきた県下でもトップレベルの企業集積のもとに、財政力が県内で一番豊かであるということ、いち早く行財政改革にもしっかりと取り組み、健全な財政を維持してきたからであると考えています。

6 美しい自然環境を守る
まちづくり

「環境の森」や「広葉樹の森」に熊本市や企業と一緒に植樹を実施し、また田んぼに水張りを行うなど地下水のかん養に努めるとともに、自然環境学習などを行い、自然保護の大切さを学びながら、ごみの減量化と分別を図り、資源循環型社会の構築に努め、住民や企業と協働しながら、一体となって、自然とともに元気な大津を目指しています。また、太陽光発電についても、昨年度補助制度を新たに設け、地球温暖化対策にも努めています。

8 地域文化・スポーツの振興

私は地域住民による地域での活動が、地域の活性化に繋がるものと考え、平成19年度からミニ特区事業を引き継いだ地域づくり活動支援事業を立ち上げましたが、この事業で地域に受け継がれてきた伝統行事などが掘り起こされ、地域住民が主体となったスポーツ活動が盛んに行われ、健康づくりにも役立っていると考えています。また、まちづくり交付金事業を利用し、町民グラウンドや昭和園テニスコート、生涯学習センターの改修整備を行い、文化・スポーツの振興を行っています。

10 町村合併について

私は、行財政改革は、実施した時点で次の改革が始まるものと考えています。そういう考え方で、今後とも現状に満足することなく、常に行財政全般について改革を進めていきたいと思っています。

国や県レベルでは道州制や政令指定都市などの動きがあつていますが、大津町は歴史的に宿場町として周辺町村の中心地として栄えたという思いがあります。そのような思いの中で、将来的に

は町村合併問題は避けては通れない部分ではあるかとは思いますが、まずは町の顔となる駅周辺や市街地の再整備を図り、元気な大津町を作ることが先決であると考えています。

以上、町長就任1年目に申し上げた、町政全般の運営に関する基本的な考え方で、3年間の取組状況と、今後のまちづくりにおける私の考えの一端を申し上げますが、永年の懸案事項をはじめ、主要な施策に取り組むことができましたことは、諸先輩方が築いてきた県下でもトップレベルの企業集積のもとに、財政力が県内で一番豊かであるということ、いち早く行財政改革にもしっかりと取り組み、健全な財政を維持してきたからであると考えています。

今年度から後期高齢者医療事務や特定健診、特定保健指導が新たに加わり、健康づくりや、介護問題などにもしっかりと取り組まなければならないとともに、子どもたちが町内に立地するすばらしい企業に就職できるよう、教育にもさらに力をいれていかなければならないと考えています。

任期最後の1年間、就任時における町政全般の運営に関する基本的な考え方10項目を、もう一度再確認するとともに、初心にかえり、全力を挙げて「宝の山」大津町を掘り起こし、将来にわたって、さらに発展させるべく、取り組みます。

みんなできいこう 元気 大津 人と自然にやさしい
心がよいあつ まち

平成20年度
予算

平成20年度町の予算総額

181億9,365万円

平成20年度の予算額は、一般会計で106億4,841万円です。対前年比4億9,163万円、4.8%の増額です。特別会計と合わせると181億9,365万円で、前年度の当初予算より7億4,061万円、3.9%の減額となっています。これは、後期高齢者医療制度が県後期高齢者医療広域連合で行われることで、老人保健特別会計が大幅に減額されたことによるものです。特別会計は、後期高齢者医療特別会計が加わり全部で8つになりました。

特別会計予算の総額は、75億4,524万円で対前年度に比べると、12億3,238万円の減額です。個別に見ると、国民健康保険が7,908万円、公共下水道が8億6,157万円、介護保険が6,636万円、農業集落排水が4,384万円それぞれ増額になり、後期高齢者医療制度に移行する老人保健が25億237万円の減額となっています。

平成20年度の予算規模

会計名	予算額	対前年比
一般会計	106億4,841万円	4.8%
国民健康保険特別会計	27億3,844万円	3.0%
老人保健特別会計	2億8,601万円	△89.8%
大津町外四ヶ市町村共有財産管理処分事務受託特別会計	563万円	△58.7%
公共下水道特別会計	18億8,164万円	84.5%

会計名	予算額	対前年比
介護保険特別会計	16億775万円	4.3%
農業集落排水特別会計	7億1,339万円	6.5%
後期高齢者医療特別会計	2億4,232万円	新設
工業用水道事業会計	7,005万円	9.9%

※表示単位未満端数処理のため合計額は一致しない場合があります。